

# 第58回 日本糖尿病学会 年次学術集会

谷澤 幸生 会長

シンポジウム21: はばたけ 女性糖尿病医

2015年5月23日(土): ぱしふいっくびーなす メインホール

座長

東京慈恵会医科大学 田嶋 尚子先生

愛知学院大学 成瀬 桂子先生

輝く 女性糖尿病医を育てる  
環境創り

琉球大学 大学院 医学研究科

内分泌代謝・血液・膠原病 内科学講座(第二内科)

益崎 裕章



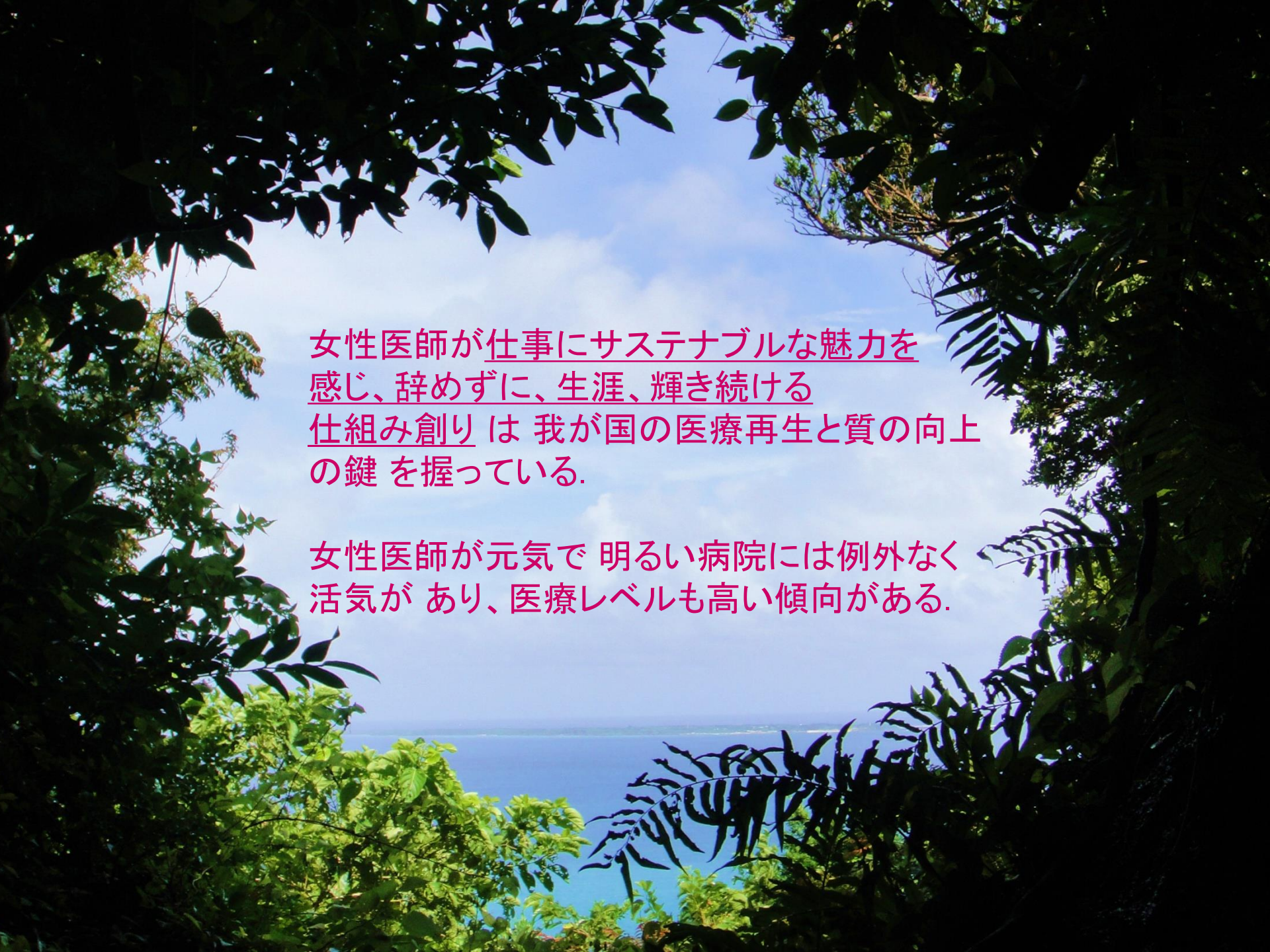


# 日本糖尿病学会 COI 開示

筆頭発表者名：益崎 裕章

演題発表に関連し、開示すべき  
COI関係にある企業などはありません





女性医師が仕事にサステナブルな魅力を感じ、辞めずに、生涯、輝き続ける  
仕組み創りは我が国の医療再生と質の向上の鍵を握っている。

女性医師が元気で明るい病院には例外なく活気があり、医療レベルも高い傾向がある。

# 私の周りの女性糖尿病医の意見

先生のシンポジウムの開催される5月23日（土）は娘の運動会があるために、  
22日（金）で学会は失礼してしまいます。  
シンポジウムを拝聴できなくてものすごく残念です。  
いつもいつも、このワークライフバランスの葛藤で、分身の術がほしくなります。

男性 糖尿病医が出来ることだけでは 不十分で +アルファが必要。  
「やめない」という後ろ向きな継続でなく、「病院として必要とされている自分なら、2-3年休んでも大丈夫」という前向きな継続が出来くらいに若いうちに専門性を高める。  
私自身、先生に御指導いただいたのを思い返して頑張っています。  
3年後、5年後、10年後、20年後に自分が何をやりたいか、出来るようになっていきたいのか常に考えながら働いています。

産後に仕事復帰して私自身以前より変わったなと思うことがあります。  
保育園のお迎えの都合で時間が限られていることもあり、以前と比べてより集中して仕事に取り組むようになりました。  
外来で、「小さい子供がいて、自分の食事どころじゃなくて・・・」「夫の介護で・・・」と食事療法がうまく出来ない患者さんの気持ちが分かるようになり、  
「具体的にこうしてみてもどうですか？このやり方なら簡単にできますよ」などと提案が出来るようになりました（以前は、忙しくてもなるべく遵守しましょうとしかアドバイス出来なかった）。



2015年5月11日

琉球大学 第二内科: 総回診




■ 女性医師 それぞれのライフステージや価値観に応じた  
輝き方を提案する(個性重視・多様な価値観の尊重)

■ 女性医師が輝く環境を日々、工夫することは  
とりもなおさず、男性医師、チーム全体が輝くことにつながる




自ら輝く女性医師

光に照らされて  
輝く女性医師



照らされた光を  
吸収してしまう  
女性医師





エール大学 卒業生を対象としたアンケート調査によると卒業の時点で明確な将来設計を“筆記”していた僅か3%の学生の卒後20年後の資産は、卒業時に将来設計をまったく考えていなかった学生(全体の84%)の32倍に達していた.

医学生の早い段階から医師キャリアのビジョンを言語化させ、“女性ならでは”の感性や発想が糖尿病診療や糖尿病ケアの質の向上に大きく貢献すること、糖尿病医としての日々の活動が魅力的で楽しく幸福感で満たされていないと意味がないことを伝えている.



# 医療人として生きる 人生にナビゲーションを

医療人としての生涯持続力（サステナビリティ）を医学生の段階からしっかり考える  
医療人としてのライフ・プラン・イメージングを医学生のときから開始する



カーナビ や グルナビ を さかんに 活用 している ひと の 中 で  
医療人として生きる人生のナビ を 持 っ て いる ひ と は そ ん な に 多 く な い

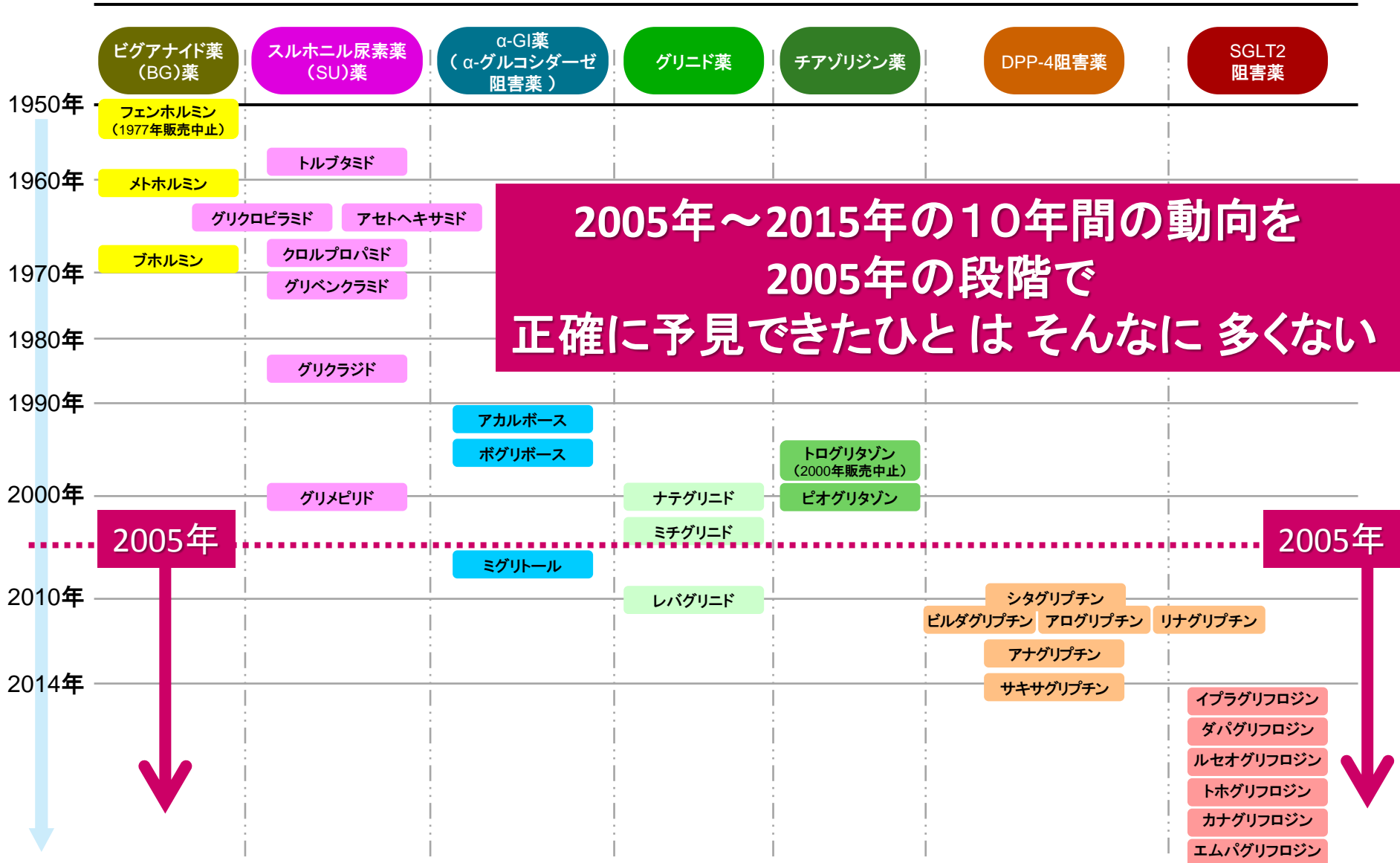


あなたは  
どんな医師に  
なりたい？



琉球大学 医学部 総合討論 実習  
～ 幸せな医療人になるために～

# 我が国における 経口血糖降下薬



2005年～2015年の10年間の動向を  
2005年の段階で  
正確に予見できたひとはそんなに多くない



# 我が国における 経口血糖降下薬

ビグアナイド薬  
(BG)薬

スルホニル尿素薬  
(SU)薬

$\alpha$ -GI薬  
( $\alpha$ -グルコシダーゼ  
阻害薬)

グリノド薬

チアゾリジン薬

DPP-4阻害薬

SGLT2  
阻害薬

1950年

1960年

1970年

1980年

1990年

2000年

2010年

2014年

- 進歩・発展が著しい医療・医学の世界で  
10年後を正確に予測することは誰にとっても至難  
“Uncertain World”
- 10年後に想定されている医療崩壊危機（2025年問題）を  
回避する有力な方策は女性医師の活躍と登用にある
- 時代の波に翻弄されることなく、自分自身の判断力と経験知  
・暗黙知をナビとして、たくましく、清々しく生きて行く  
女性医師を育成する意識・雰囲気創りが重要

エムパグリフロジン

40歳:不或  
50歳:知命



女性医師



人生90年時代  
50歳からこそ  
輝くことができる

家事・育児・親の介護  
経験知・暗黙知の集積



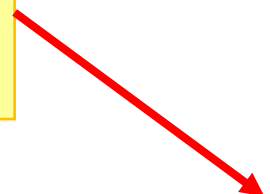
時短  
フレックス



引き出しのバリエーション  
受容力の大きさ・懐の深さ  
ライフステージ俯瞰力



実生活に基づいたリアリティのある  
糖尿病療養指導や  
きめ細やかな診療を実践できる



後進医師の  
キャリアモデル



女性医師が輝く仕組み創りは  
男性医師も含めた  
仕事のやり方・働き方にも  
大きな示唆やヒントを与える



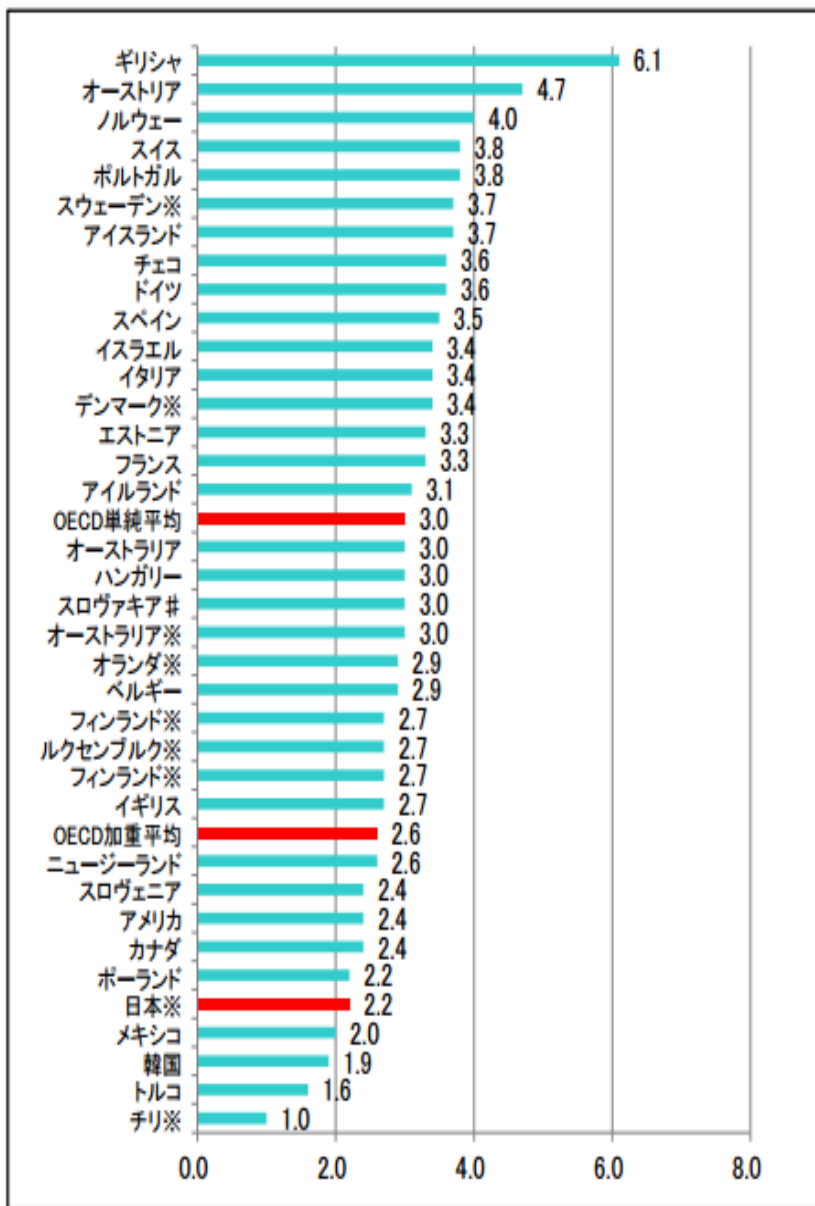




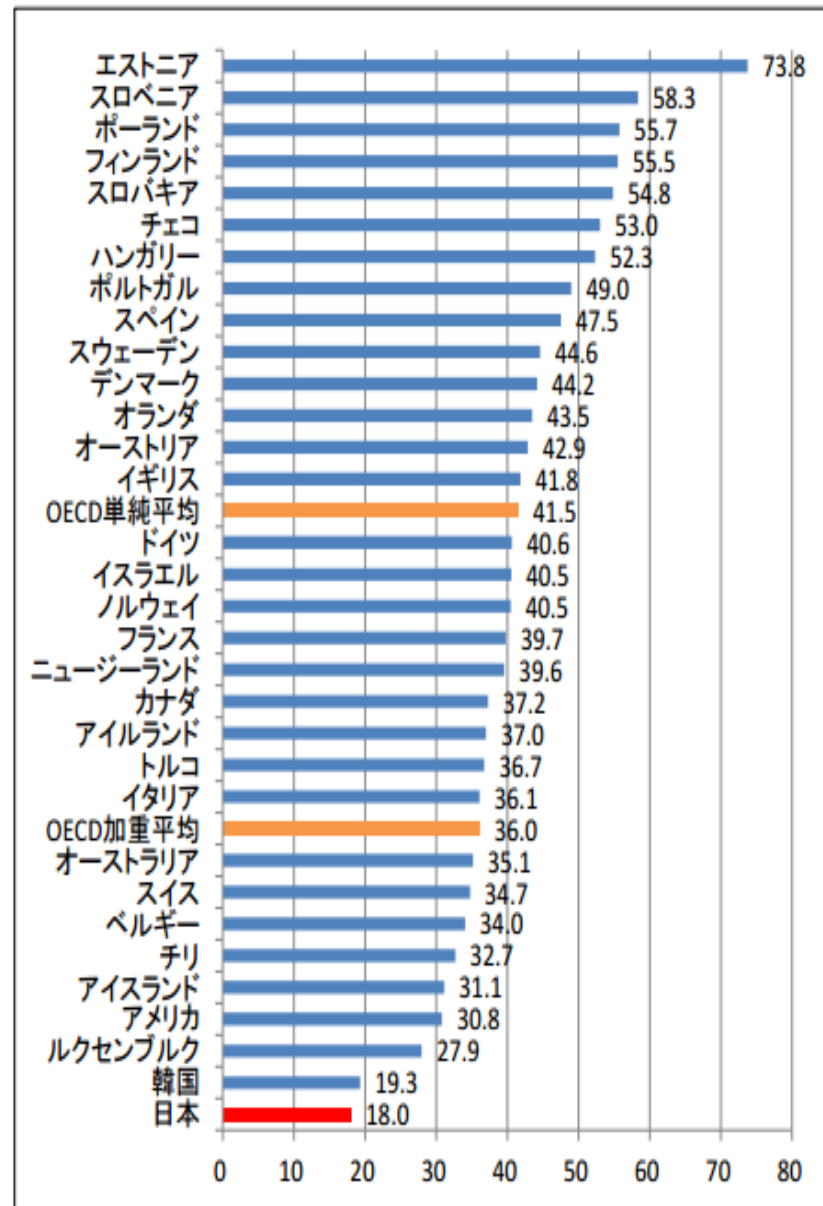
早い段階からキャリア・イメージを創る  
女性医師と女子医学生の意見交換・交流の機会を設ける

女性医師・女子医学生の  
reality について正しい認識を持つ

# 各国の人口1000人当たり臨床医数

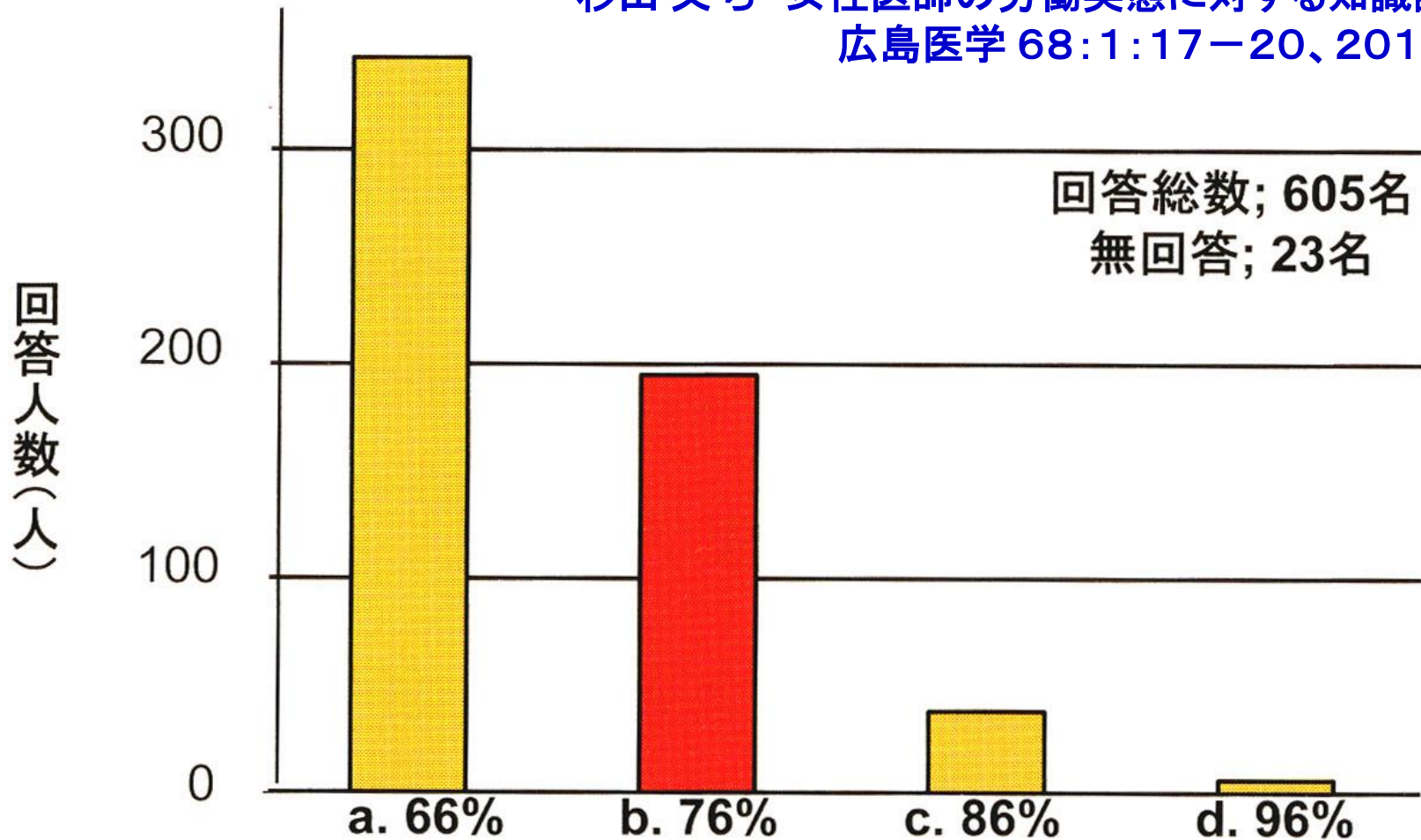


# 各国の女性医師の割合(%)





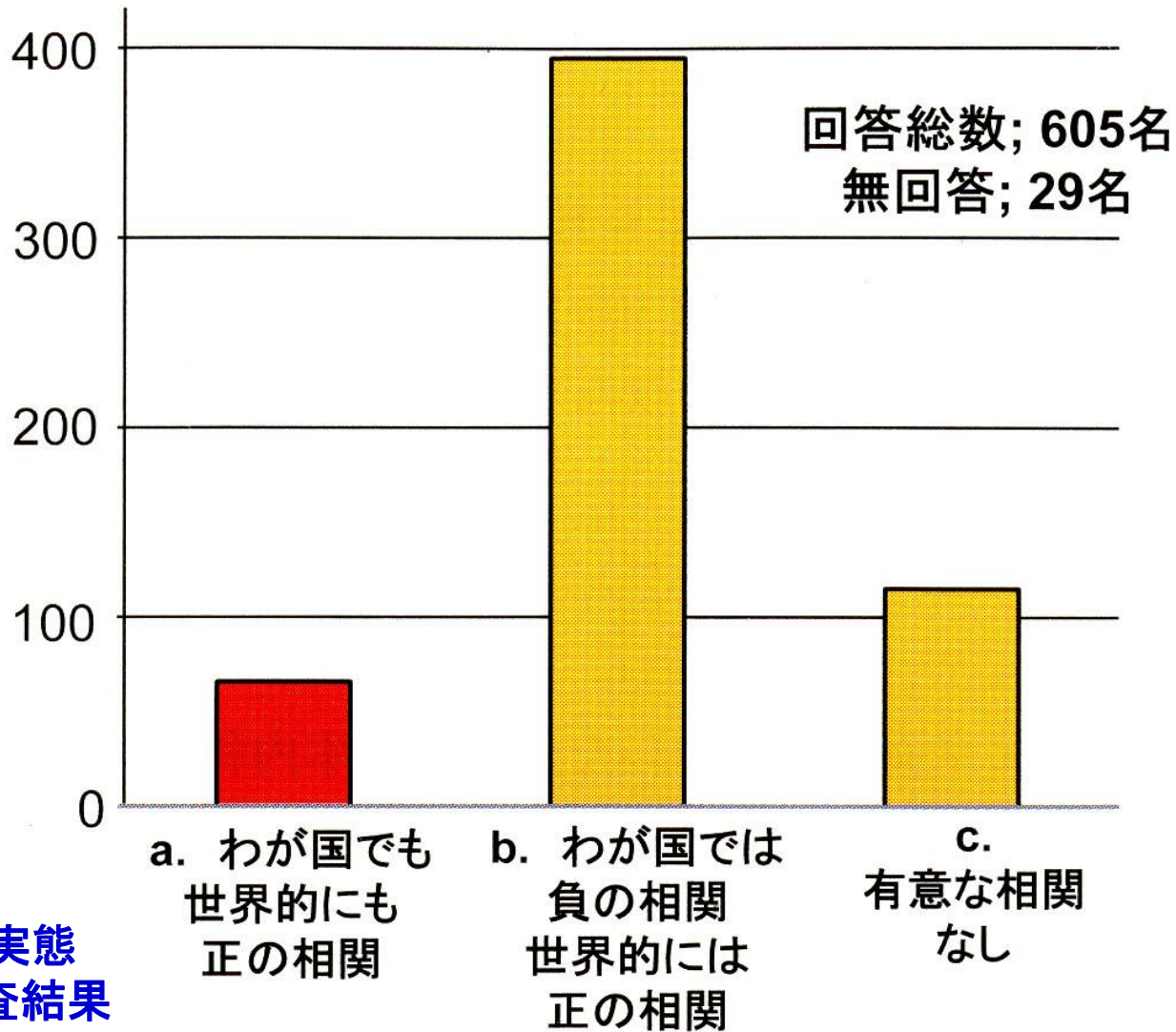
杉山 文ら 女性医師の労働実態に対する知識調査結果  
広島医学 68:1:17-20、2015



正答[b] 正答率; 33.5%  
(女性正答率 44.6%, 男性正答率 30.3%)

35 歳女性医師の就業率について

回答人数(人)



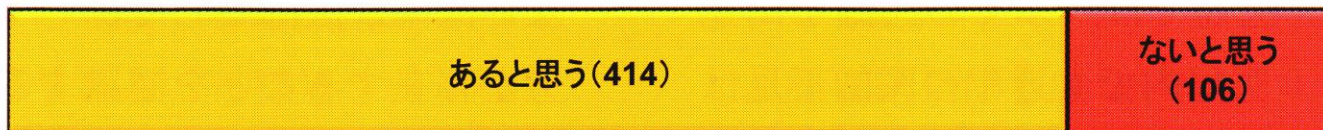
杉山 文ら  
女性医師の労働実態  
に対する知識調査結果  
広島医学  
68:1:17-20、2015

正答[a] 正答率; 11.5%  
(女性正答率 10.1%, 男性正答率 11.8%)

女性の就業率と出生率の関係について



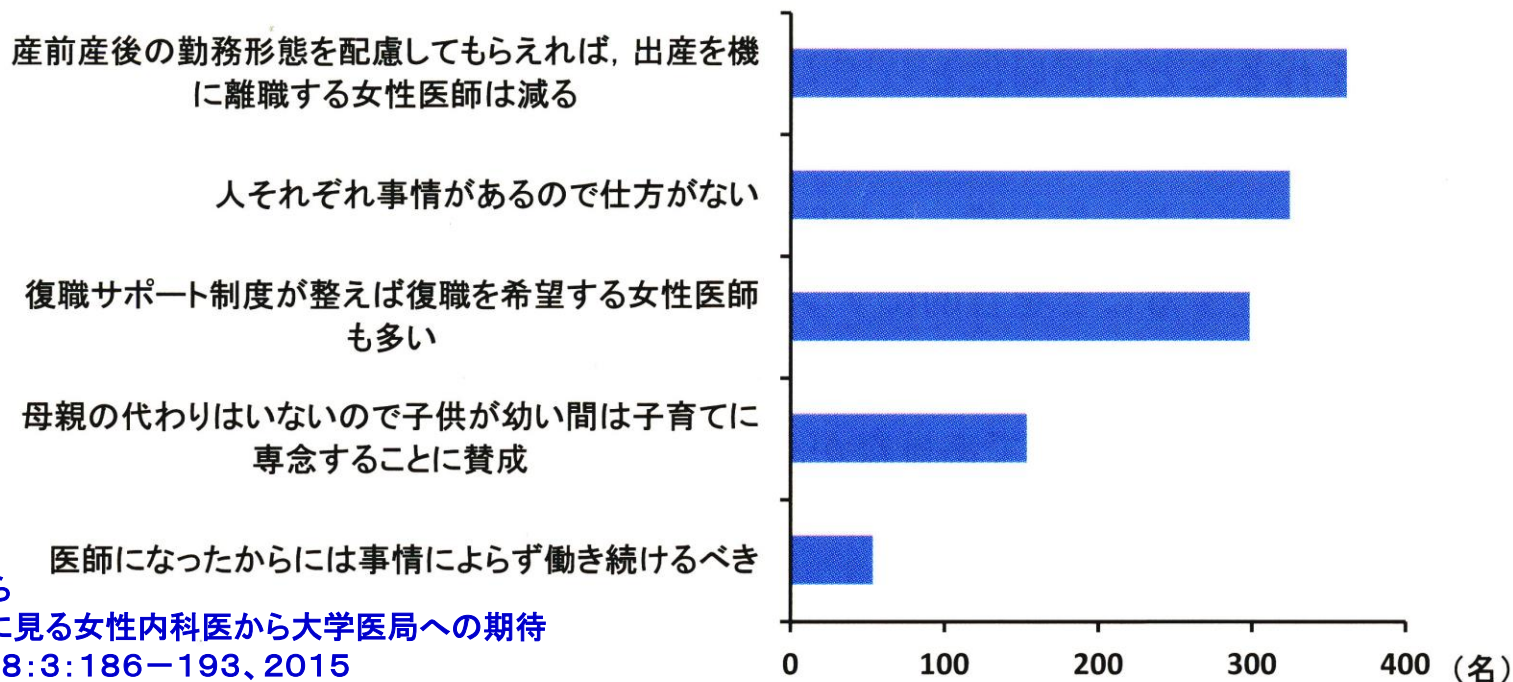
○質問: 女性医師が出産育児中に勤務体制に配慮を受けている場合に、他の医師に不公平感や不満があると思いますか？



無回答; 21名

他の医師の不公平感について

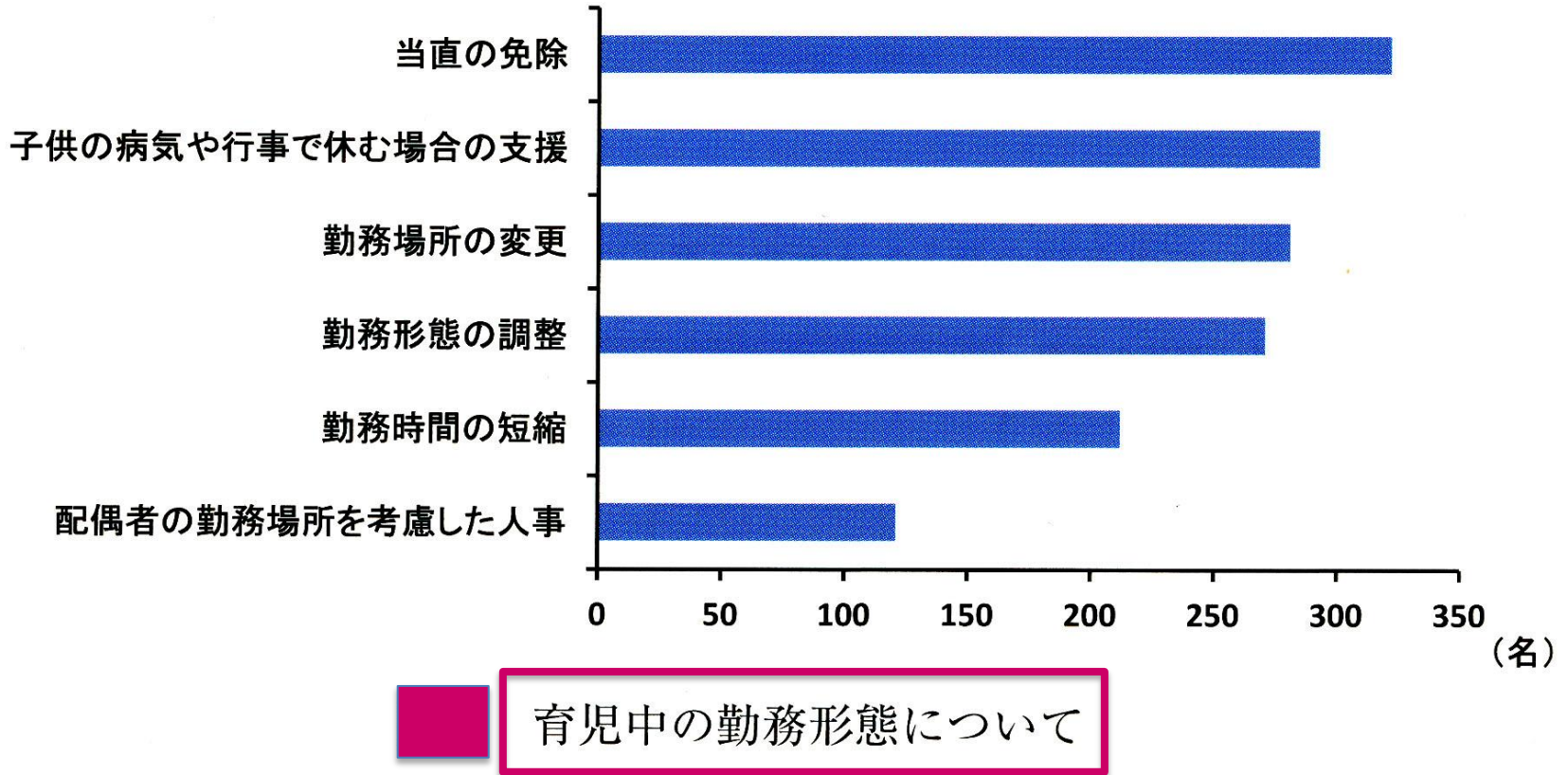
○質問: 家庭に入り仕事をしない女性医師に対してどう感じますか？【複数選択可】



中川 三沙ら  
アンケートに見る女性内科医から大学医局への期待  
広島医学 68:3:186-193、2015

家庭に入り働かない女性医師について

○質問:育児中に医局に要望することはなんですか?【複数選択可】



中川 三沙ら

アンケートに見る女性内科医から大学医局への期待

広島医学 68:3:186-193、2015



# 琉球大学 第二内科 出身 糖尿病専門医 女性の所感

人生には出産育児のみならずいろいろなことが生じます。

妊娠・出産・育児が目下、女性医師をとりまく話題の中心ですが

介護 → 先が見えない混沌とした時期、精一杯だったようで後悔が多い。

法事 → 慣れない親戚づきあいにやしきたりにとまどう。

更年期 → 知識としてはあっても経験待ち。休業する先生がいらっしやるほど。

日常業務としての家事 → 日々の献立に頭を悩ませる。

PTA や自治会 含め日常生活 も付き合い 広がる。

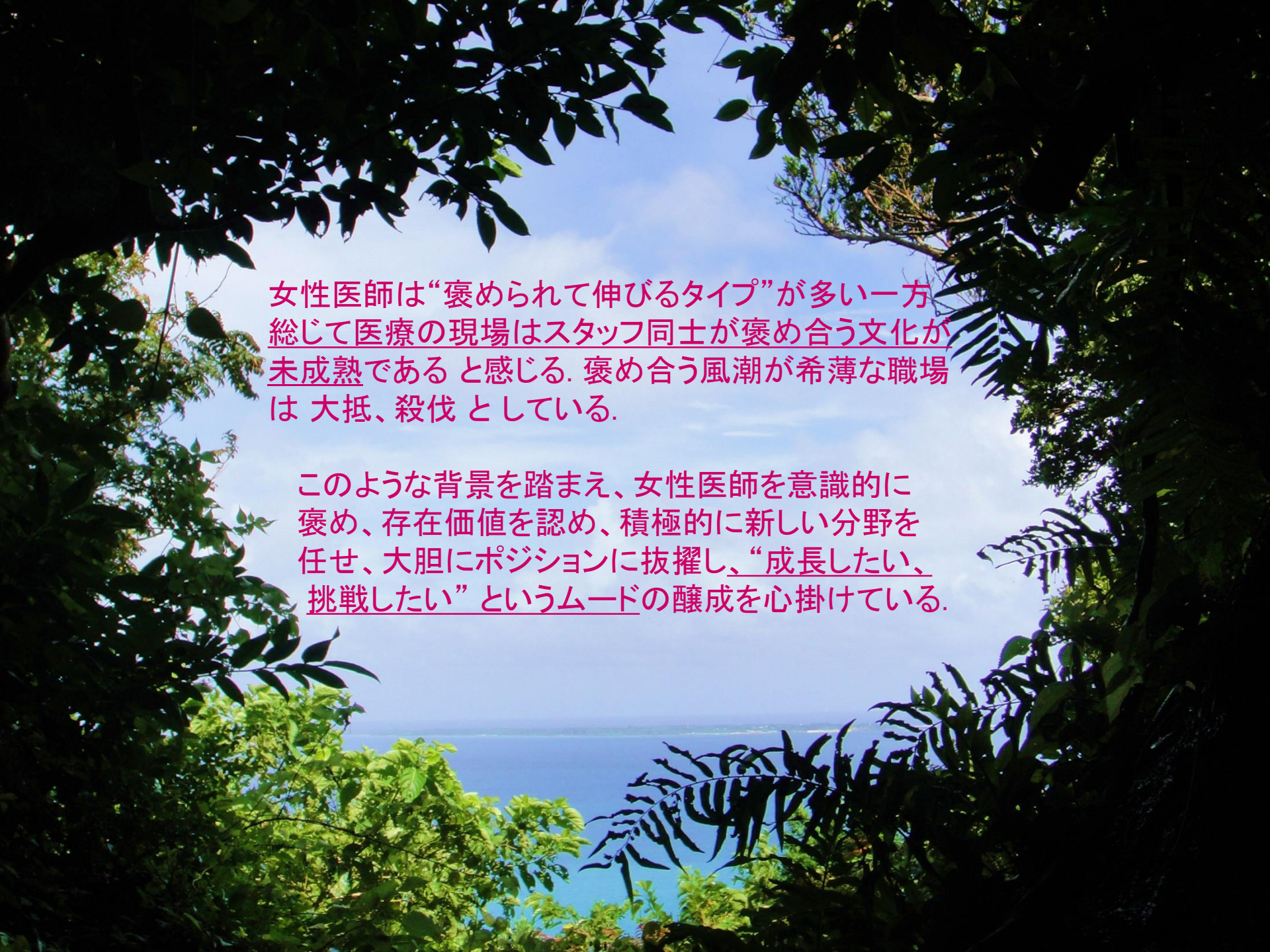
**唯一、自分単位でできる 医師としての 業務**

→ 正直、仕事が息抜きになることも ある。

→ ただし 持ち帰りの仕事は 夜間になる。

糖尿病 専門医としての業務について 家事・育児・介護・法事を経験して  
きた私の状況が 診療にプラスになっているのは間違いないです。

**患者さんの置かれている状況が理解しやすくなり、的確なアドバイスが出来る**



女性医師は“褒められて伸びるタイプ”が多い一方、総じて医療の現場はスタッフ同士が褒め合う文化が未成熟であると感じる。褒め合う風潮が希薄な職場は大抵、殺伐としている。

このような背景を踏まえ、女性医師を意識的に褒め、存在価値を認め、積極的に新しい分野を任せ、大胆にポジションに抜擢し、“成長したい、挑戦したい”というムードの醸成を心掛けている。









結婚披露宴は

女性医師と伴侶、御両親や家族親族の皆さんに対して  
パッケージで女性医師応援メッセージを届ける絶好の機会

- ♠ いかに女性医師に対して期待しているか
- ♠ ライフステージに応じた多様な働き方が可能であること
- ♠ 可愛いおばあちゃんになるまで、なってからも、医師を辞めないでほしいこと





# 日本糖尿病学会 九州地方会

## 半世紀スタートに向けて

～新たな一歩を踏み出した糖尿病診療～

**会期** 2013年11月8日(金)・9日(土)

**会場** 沖縄コンベンションセンター 等  
〒901-2224 沖縄県宜野湾市真志喜 4-3-1 等

**会長** 益崎 裕章 琉球大学大学院 医学研究科  
内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座(第二内科)教授



※空港・主要ホテルよりシャトルバスを運行いたします  
(公共交通機関の場合)  
◆那覇バスターミナル→沖縄コンベンションセンター前まで約40～60分  
◆空港→沖縄コンベンションセンター前バス停まで約50～70分  
◆モノレール 空港から古島駅まで約21分、古島駅から沖縄コンベンションセンターまでタクシーで約15分

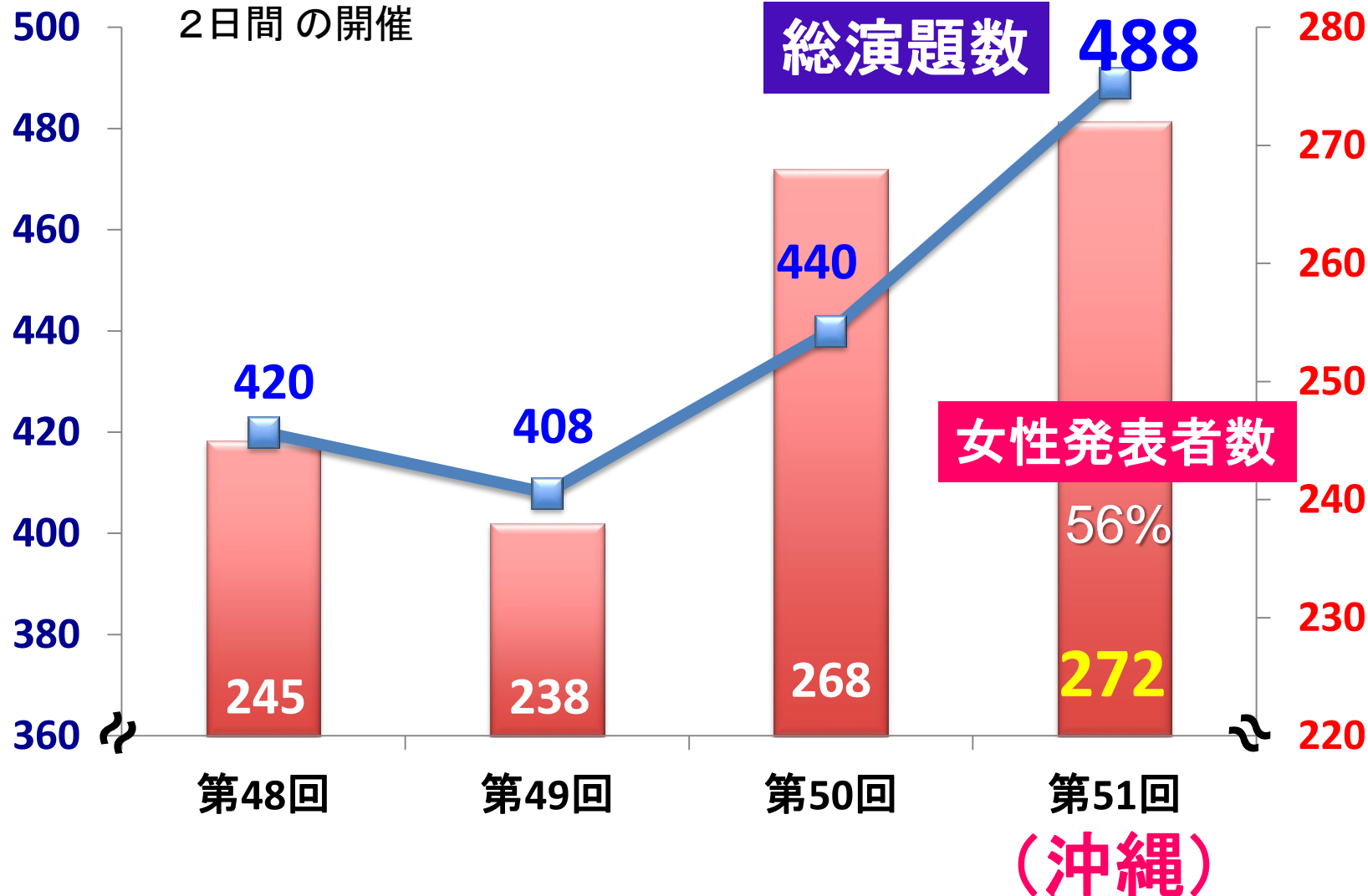


# 最近4年間 の 糖尿病学会 九州地方会 (一般演題数の推移)

総演題数

九州地方会  
支部長: 荒木 栄一 教授  
2日間 の開催

女性発表者数

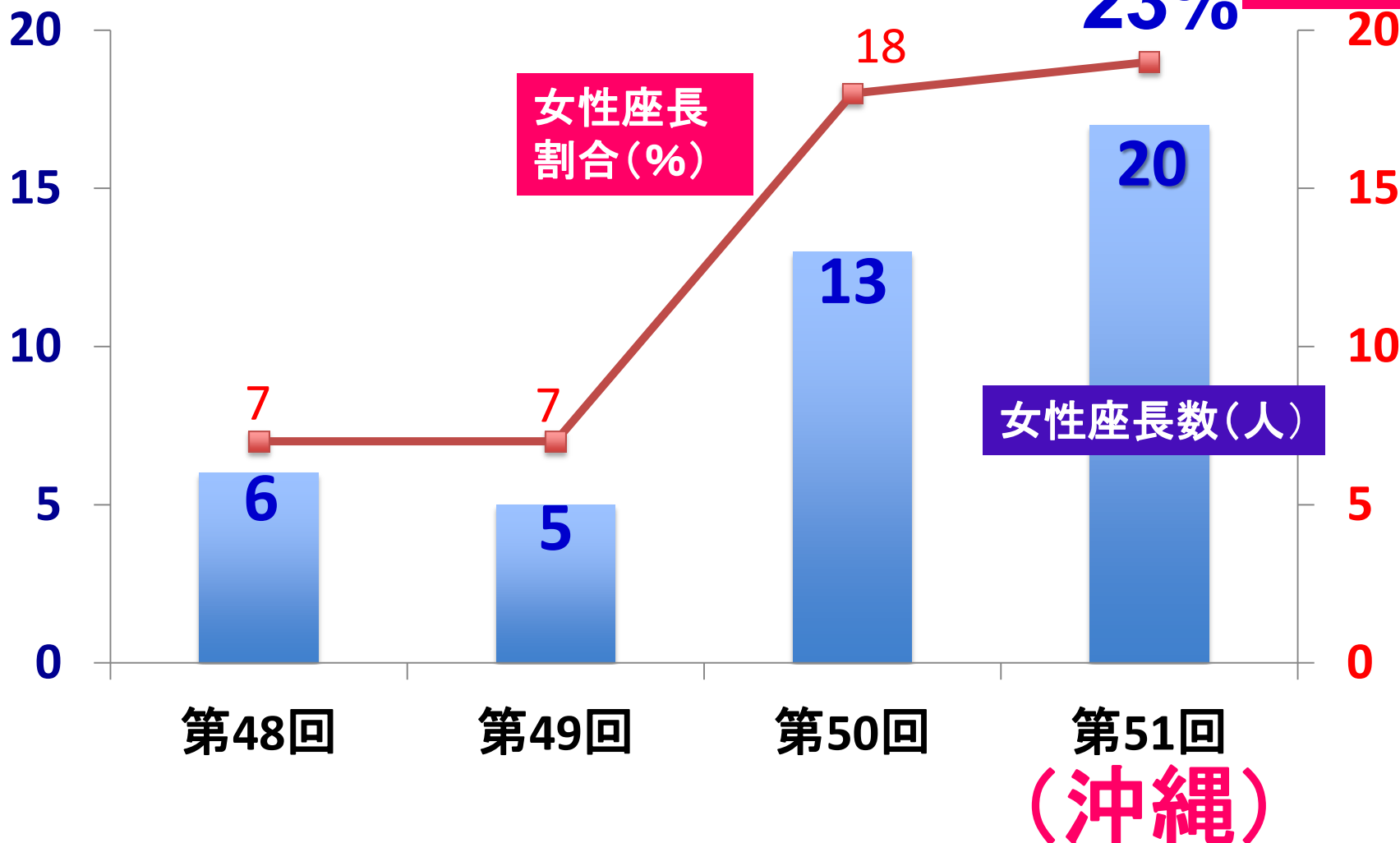




# 女性医療スタッフが座長をつとめる一般演題セッション数 (最近4年間の糖尿病学会九州地方会)

女性座長数(人)

女性座長  
割合(%)



# 輝く女性 糖尿病医 から学ぶ・刺激を受ける 機会を設ける



(田嶋 尚子 教授 を御招きしての講演会)



東京女子医科大学 名誉教授 大森 安恵 先生を囲んで  
世界糖尿病デイ 記念講演会(沖縄)  
2014年10月17日



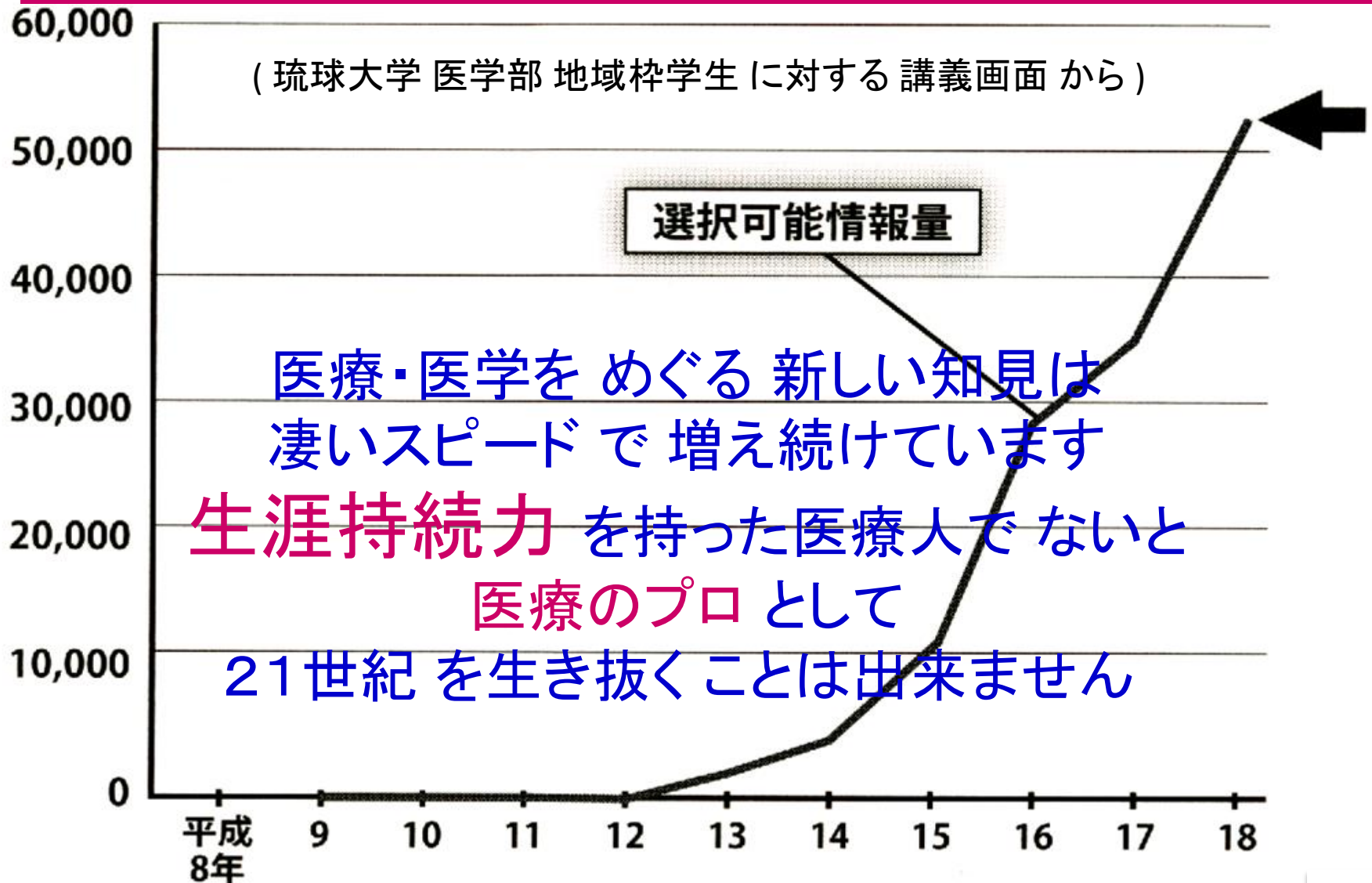


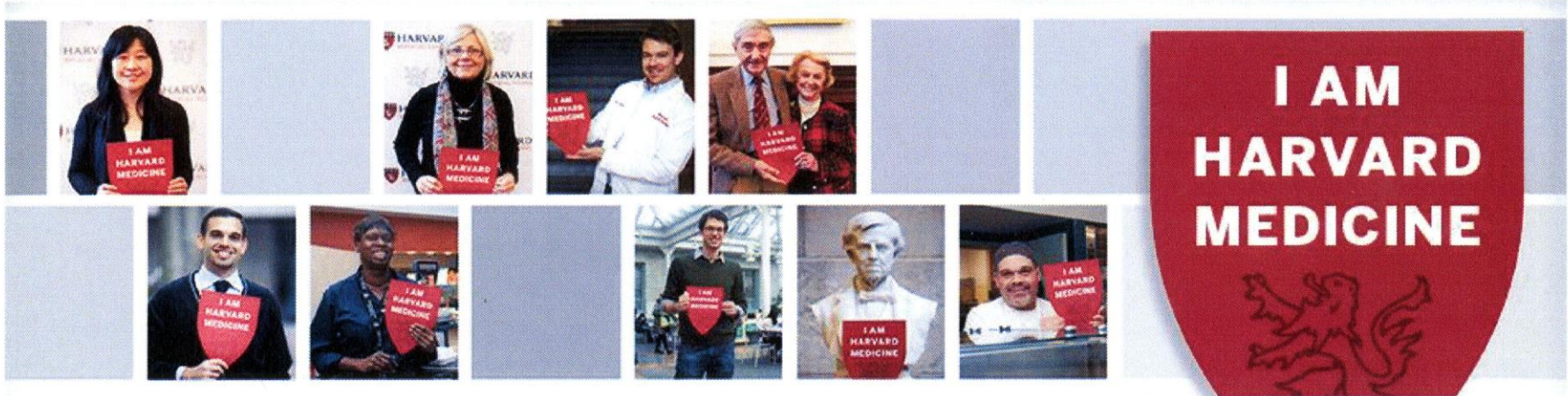
臨床や研究で良い仕事をするためには  
既存の方法を踏襲して“少しだけ無理をする”  
“姑息なアプローチでは 成果は期待できない。

コミュニケーション や学習法 はもとより、“働き  
方の慣行”を 根本的に変える発想を持ち、取り組  
むべき仕事の選別眼を磨き、チーム力をテコに  
上手な働き方を身に付けることが  
女性 糖尿病医 を輝かせる基本 と考えている。



# 私たちを取り巻く医学情報は最近10年間で 15倍に増えています





留学時代(2000年~2003年)の恩師、Jeffrey S. Flier 教授は 2007年以降、ハーバード大学 医学部長 を務めている。論文の書き方やプレゼンテーションは 芸術的。ラボ・メンバーの 過半数 が女性 という研究環境 でいかに 女性力を 引き出すか、たくさんの学びがあった。

### Dean's Corner



#### What I Learned in Silicon Valley

Tech companies now see health care as significant, fertile market.

[Read more >](#)

### Latest News

[Subscribe](#)



#### Out of Breath and Out of Pocket

After ozone-protecting inhaler ban, asthma patients pay nearly twice as much more per year for inhalers.



#### Mapping the Future of Global Surgery

Lancet Commission outlines goals for 2030 at Boston launch

### Select Your Community

I AM A/AN...

**THE WORLD IS WAITING**  
THE CAMPAIGN FOR HARVARD MEDICINE

*Education. Discovery. Service. Leadership.*

Through this campaign, we will address the greatest health care challenges of our time to help people live longer, healthier lives. [Learn More >](#)



# My Friends, World-Alliance

Harvard Medical School and Beth Israel Deaconess Medical Center  
Professor Jeffrey S. Flier's Lab, 2003

ドイツ:育児中

フィンランド

ギリシャ:主婦

スコットランド

ライフスタイルやライフステージに合わせて仕事のやり方はいくらでも工夫することが出来る。

2001年当時、女性研究者に対する配慮は日本に比べて格段に行き届いているように感じられた。

# ～ ボストン流 仕事術 ～

Work Less, Think More.

不毛な忙しさ (active non-action) に陥るな!

徹底的に考えろ!

目先の多忙に追われると 本当に必要で重要なことを 無意識に先送りしてしまう。

忙しいから絵が描けないのではなく  
絵を画かないからいつまでも忙しいのだ (怠惰な多忙)



# ～ボストン流 仕事術～

## What Makes You Different ?

他のひとが やらないことを 最初にやれ.

火事を 消す のではなく、火をおこせ.  
リスクを取る ことは 最良の リスク回避策 である.

## コンテンツ

## インフォメーション

- 1 ごあいさつ
- 2 講座の沿革
- 3 スタッフ紹介
- 4 診療について
- 5 研修について
- 6 研究について
- 7 同門会・関連施設
- 8 お問合せ

### 2010年度 新入生 指導教員 挨拶

第二内科(内分泌代謝・血液・膠原病内科) 教授 益崎 裕章

昨年(2009年)10月から 第二内科(内分泌代謝・血液・膠原病内科)を担当しております 益崎(ますざき)です。  
新入生 の皆さん、琉球大学 医学部 御入学、誠に おめでとうございます!

生涯にわたって 多くの人々に喜ばれ、多くの人々に感謝される 医師という職業 は  
皆さんの人生を賭けるに値する 働き甲斐に満ちた 素晴らしい御仕事です。  
誇りと自信にあふれ、楽しそうに、幸せそうに、生き活きと輝き続ける 素敵な御医者様 になってください。  
“プロフェッショナル”として 医師を志した最初の新鮮な気持ちを いつまでも大切になさってください。  
皆さんが今、心に描いている たくさんの夢やビジョンが 爽やかに実現しますように。そして、健康と安全に恵まれた  
幸せな6年間の医学部生活となりますように。心から御祈りしております。

皆さんの指導教員を担当させて戴くに当たり、幸せな医学部生活を送るための“ひとくちアドバイス”を贈り、御挨拶  
に替えたいと思います。

これを実行できれば 皆さんの6年間は 大きな実りと学びをもたらします!

自分の未来は自分で設計できる のです。

指導教員として、皆さんと仲良くなれることを楽しみにしています。

琉球大学医学部 第二内科  
〒903-0215 沖縄県中頭郡西原  
町字上原207番地



- ① ひとの話をよく聴く。7:3の割合で”聴き役”に回る。
- ② ひとの話は 専用のノート(手帳)にメモを取りながら聴く。そして、そのノートを大切に保管し、時々、読み返すこと。
- ③ 一日の始まり(あるいは前夜)に その日一日の段取りを考える習慣をつける。
- ④ 今、目の前に居るひとを大切にする。一回、一回に心をこめる。今のこの瞬間(present)は贈り物(present)です！
- ⑤ ちいさなことの 地道な積み重ね の果てにしか 大きなことは 達成できない。
- ⑥ 普段 にベストを尽くす。工夫は 平生 にあり!
- ⑦ 常に 相手の立場に立って行動する。相手(患者さん、医療スタッフ)は あなたにどうしてほしいのだろうか？相手のニーズや状況を想像できるひとになる。
- ⑧ 幸せそうに、楽しそうに 歩いていく。御医者様が 疲れている、やつれている、不機嫌でイライラしている ….. ようでは プロとは言えない！
- ⑨ 常に 愛のある言葉 を使い、愛のある行動 をする。愛の反対語 は 無関心 です。使う自分が 爽やかになり、聴いている周りのひともしも爽やかになる言葉を使う。日常に使う言葉を変えることで 世界が変わります。
- ⑩ 幸せは 遠いどこか にあるのではなく自分の足元 に感じるもの。その感性が大切。

# 私の周りの女性 糖尿病医 の所感

ワークライフバランスのためには、時間の使い方、多様性の容認が必要。  
時間制約を意識し、時間当たりの生産性を如何に上げていけるか、  
決まった時間に集合しなくても チームで共有するために、朝メール(スケジュール確認)夜  
メール(つまづきや課題をあげる)で 情報共有する。  
医局会 やカンファのある日に 頼める イブニング シッター制度を作る。  
子育て支援相談コーディネーターに加え、これからは介護コンサルの必要性が高くなる。

子育て中の女医さんは、9時から15時半までの勤務で、主治医としてではなくチームのサポート役で働いています。日中はチーム内で頼りにされていること、夜間、土日は家庭のために力を注げる利点であります。

頼りにされるためには、オールマイティーに勉強しなければならないため、仕事に対する意識が高まったと話していました。

結婚しても いろんな形で働ける ということが、輝く女医さんの希望の一つになればと思います。

女性医師が輝きながら仕事を続けるには お互いの「想像力」と「感謝の気持ち」が大切だなと感じます。時短の先生 をフルで働いている先生が カバーすることになるのですが、仕方ないとは思っていても 何か 腑に落ちない感じがして、一緒に楽しく仕事は できなかつたそうです。互いの状況を 想像しつつ、いつかは自分も同じような立場になるかもしれないと考えながら 常に感謝を伝えて 依存しすぎなければ、うまくいくのかな と思います。子供のいない先生には、育児が どんなに大変か 想像できないこともあるかもしれません。



40歳:不或  
50歳:知命



女性医師



人生90年時代  
50歳からこそ  
輝くことができる

家事・育児・親の介護  
経験知・暗黙知の集積



時短  
フレックス



引き出しのバリエーション  
受容力の大きさ・懐の深さ  
ライフステージ 俯瞰力



実生活に基づいたリアリティのある  
糖尿病 療養指導や  
きめ細やかな診療を実践できる

女性医師が輝く仕組み創りは  
男性医師も含めた  
仕事のやり方・働き方にも  
大きな示唆やヒントを与える



後進医師の  
キャリアモデル

Submitting Author: Dr Massimo Morfini

Dear Dr Masuzaki

The above manuscript has been submitted to the EUROPEAN JOURNAL OF HAEMATOLOGY. Given your expertise in this field, I am kindly asking if you would be willing to review this manuscript. It is the policy of the journal to ensure that the submission process of manuscripts is quick and efficient and, therefore, we schedule only two weeks for the reviewing process. If you agree to review this manuscript, we assume that you accept this condition and have the available time to complete the task within the stipulated time. It would greatly assist us if you could respond as soon as possible.

Please use the links below to agree or decline to review this manuscript.

I do hope that the journal can take advantage of your expertise.

Sincerely,

Cezary Watala

女性糖尿病医 に対して 新しい挑戦 は いくつになっても  
出来る! ことを 身を持って示す 私の試み

Section Editor

ABSTRACT: Recombinant factor VII activated (rFVIIa) is a bypassing agent widely used in haemophilia A and B patients with antibodies against coagulation factors VIII or IX. rFVIIa controls bleeding, subclinical bleeding and re-bleeding avoiding the effect of neutralizing inhibitors.

Because of the fast action of the rFVIIa, haemostasis occurs promptly and enables a fast bleeding control with on-demand treatment in home or surgical setting. Rapidity is also a distinguishing feature in preparation and injection of rFVIIa to cope the restraining times of busy patients and parents. The long effective haemostatic activity of rFVIIa enables a sustained bleeding control, which is implemented with every other day (eod) administration and suited for enhanced on-demand therapy and prolonged use of rFVIIa to prevent micro-haemorrhages or re-bleeding.

Comprehensive appreciation of these pharmacological and pharmacodynamics' characteristics will likely be a further stimulus to the wider eod use of rFVIIa.



Submitting Author: Dr Massimo Morfini

Dear Dr Masuzaki

The above manuscript has been submitted to the EUROPEAN JOURNAL OF HAEMATOLOGY. Given your expertise in this field, I am kindly asking if you would be willing to review this manuscript. It is the policy of the journal to ensure that the submission process of manuscripts is quick and efficient and, therefore, we schedule only two weeks for the reviewing process. If you agree to review this manuscript, we assume that you accept this condition and have the available time to complete the task within the stipulated time. It would greatly assist us if you could respond as soon as possible.

Please use the links below to agree or decline to review this manuscript.

I do hope that the journal can take advantage of your expertise.

**女性糖尿病医 に対して 新しい挑戦 は いくつになっても  
出来る! ことを身を持って示す 私の試み**

**まったくの異分野であっても3年あれば新規参入が可能**

recombinant factor VIIa (rFVIIa) is a bypassing agent widely used in haemophilia A and B patients with antibodies against coagulation factors VIII or IX. rFVIIa controls bleeding, subclinical bleeding and re-bleeding avoiding the effect of neutralizing inhibitors.

Because of the fast action of the rFVIIa, haemostasis occurs promptly and enables a fast bleeding control with on-demand treatment in home or surgical setting. Rapidity is also a distinguishing feature in preparation and injection of rFVIIa to cope the restraining times of busy patients and parents. The long effective haemostatic activity of rFVIIa enables a sustained bleeding control, which is implemented with every other day (eod) administration and suited for enhanced on-demand therapy and prolonged use of rFVIIa to prevent micro-haemorrhages or re-bleeding.

Comprehensive appreciation of these pharmacological and pharmacodynamics' characteristics will likely be a further stimulus to the wider eod use of rFVIIa.

女性糖尿病医のライフステージの変化は新たな挑戦や成長のきっかけを与えてくれ、仕事の取り組み方を根本的に変える絶好の機会となる。

止まることを知らない 回遊魚のような人生から

一回、**止**まる = **正**しい

少し、**止**まる = **歩**く

人生の機微を味わうモード変更によって

仕事の取り組み方をダイナミックにバージョン・アップ  
することが可能になる。



## Marie Kondo

By Jamie Lee Curtis

April 16, 2015



### Organizer in chief

I have been following Marie Kondo's simple, clear rules for a decluttered life since way before they were written. My mother was an early adopter of order, and I the apple from her very organized tree.

But I have learned a few tricks from this modern-day "Marie Poppins," who has turned decluttering—what I have called brooming for decades—into shelf help, an art form with a legion of newly neat devotees. Her book, *The Life-Changing Magic of Tidying Up*, is a literal how-to-heave-ho, and I recommend it for anyone who struggles with the material excess of living in a privileged society. (Thanks to Ms. Kondo, I kiss my old socks goodbye.)

What I love most about her method is the respect she suggests we show our soon-to-be-departed possessions. If they don't "spark joy" in our hearts, as she puts it, then we should pause to acknowledge our memories together



Bobby Doherty—New York Magazine

## Haruki Murakami

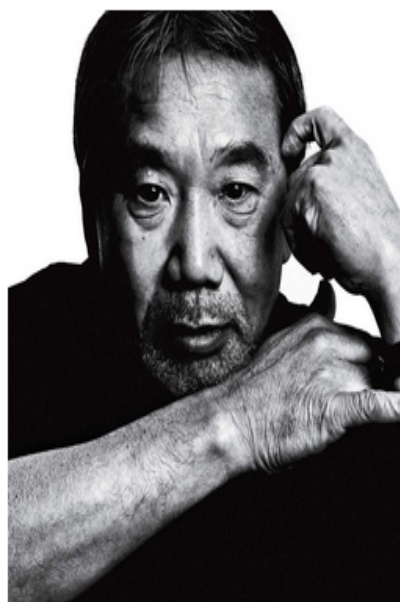
By Yoko Ono

April 16, 2015



I'm glad that Murakami-san has been selected as one of the 100 most influential people in the world by TIME. He deserves the honor. He is a writer of great imagination and human sympathy, one who has enthralled millions of readers by building fictional worlds that are uniquely his. Murakami-san has a singular vision, as informed by pop culture as it is by deep channels of Japanese tradition. And he's a Japanese writer—while Murakami-san spends much of his time in the U.S. and has earned acclaim internationally, he and his books are very much a product of Japan. In recent years, as the government in Japan has become more conservative, Murakami-san has become a valuable voice for peace.

*Ono is a multimedia artist known for her groundbreaking conceptual and performance pieces, experimental films and music* ■



Markus Jan

## Marie Kondo

By Jamie Lee Curtis

April 16, 2015



### Organizer in chief

I have been following Marie Kondo's clear rules for a decluttered life since they were written. My mother is the adopter of order, and I the appointed organizer of the tree.

But I have learned a few tricks from modern-day "Marie Poppins," including decluttering—what I have called "tidying"—into shelf help, an arsenal of newly neat devotees, and a *Life-Changing Magic of Tidying Up* how-to-heave-ho, and I recommend it to anyone who struggles with the chaos of living in a privileged society. Like Kondo, I kiss my old socks good-

What I love most about her method is that she respects she suggests we show our soon-to-be-departed possessions. If they don't "spark joy" in our hearts, as she puts it, then we should pause to acknowledge our memories together

## Haruki Murakami

By Yoko Ono

April 16, 2015



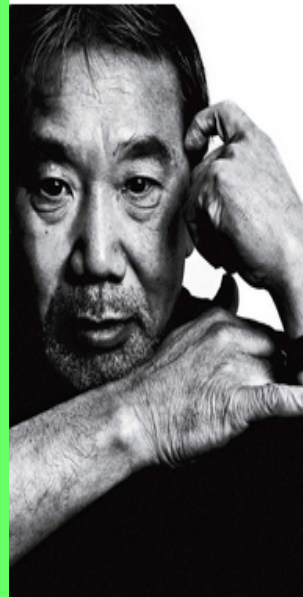
糖尿病医としての仕事  
糖尿病医としての自分  
仕事仲間  
置かれている状況

にトキメキを見出し

自己の成長と学び

ライフ・ステージに応じた チームに対する貢献

を両立しながら 幸福な女性医師の人生を歩む



Markus Jan

pieces, experimental jams and music ■



第58回 日本糖尿病学会 年次学術集会  
シンポジウム 21  
はばたけ 女性 糖尿病医

2015年5月23日(土)  
ぱしふいっくびーなすメインホール



講演の機会を戴き、また、  
座長の労を御取り戴きました  
谷澤 幸生 会長  
田嶋 尚子 先生  
成瀬 桂子 先生  
御来聴 戴きました皆様に  
深く感謝申し上げます

御清聴、誠に  
有難う御座いました

